

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
（販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No.	別名	性別	年齢	用量	成分	副作用	経過	経過の概要	前回のNo.	備考
212	B-08002942	男性	12歳	150 mg	塩化デカリニウム アズレンスルホン酸ナトリウム	異常行動	回復	頭痛、咽頭痛を認め、38.2度の発熱。同じクラスで4人インフルエンザ発症していた。 初診にかかるが、咽頭サンプルによるインフルエンザ検査にてインフルエンザウイルス検出されず。 インフルエンザ疑いに対し、リン酸オセルタミビル服用開始。 本剤服用後、日中熱が下がると寝ぼけたような感じになり、母によれば「明らかに眼がちがった」とのこと。アリのような紫色の気持ち悪い虫が迫ってくるのとこと、「外に出なくてはならない」、「ベランダへ出ようとする」といった異常行動発現。 この症状は1回のみ出現であった。 解熱後は症状出現なし。 異常行動は回復と判断。 服用5日目、本剤服用終了。その後、インフルエンザ回復。 （翌シーズン）インフルエンザA型感染。リン酸オセルタミビル未使用でも、夜間に同様な症状を認めた。		2008/4/1以降 新規報告
213	B-08024604	男性	12歳	75 mg	塩酸ソロブテロール	異常行動	回復	当院受診しインフルエンザA型と診断され、昼食後にリン酸オセルタミビル等服用。その後ベッドへ行く。 服用約1時間半後に異常行動発現。玄関のドアの開閉音あり。異常行動の注意をしていたので母が心配になりベッドを見ると不在。トイレにいない。祖父と外を探したところ、4～5分後に祖父が発見。裸足で家の外を歩いていた。声をかけたところ、それまでボーッと歩いていた本人は我にかえった。この間のことは覚えていない。その後、インフルエンザA型、副作用ともに症状が速やかに回復。本剤はその後服用していない。		2008/4/1以降 新規報告
214	B-03000982	男性	13歳	150mg	クラリスロマイシン 臭化水素酸デキストロメトルファン カルボシステイン リン酸コデイン 酸化マグネシウム	異常行動	回復	B型インフルエンザの治療のためリン酸オセルタミビル及び他の併用薬服用開始。服用2日目の16時異常行動発現（突然2階から降りてくる、ウサギ跳びをする、異常な発言）、家族がなだめ就眠。20～21時異常行動（ベッドから飛び降りる、異常な発言あり）。3日目朝全て薬剤中止。異常行動発現5日後に回復。	異常-186	
215	B-03001038	女性	13歳	150mg	塩酸テアラミド リン酸ジヒドロコデイン 塩酸メチルエフェドリン マレイン酸クロルフェニラミン	幻覚	回復	インフルエンザA型と診断、リン酸オセルタミビル150mg/日他を処方。夕方、75mgを服用。翌日、39℃の熱が下降すると同時に走り始め窓から飛び降りようしたり、奇声を発した。翌日も同様の状態が続いた。2日後には症状はなくなり、投与開始5日目の朝の服用で本剤の投与終了。	異常-187	
216	B-03009902	男性	13歳	150mg	dl-マレイン酸クロルフェニラミン カンゾウ抽出物・メタケイ酸アルミン 酸マグネシウム ヒベンズ酸チペジン 塩化リゾチーム プロチン	譫妄	回復	インフルエンザA型と診断、リン酸オセルタミビル150mg/日他を処方。同日夜、75mgを服用し、その2時間半後、家の中を走り回ったり、意味不明の奇声など異常行動出現。40分後、受診したが、受診時の意識は正常、譫妄状態時の記憶なし。点滴し1時間ほどで帰宅。翌日もリン酸オセルタミビル150mg/日を服用（併用薬も継続）。異常所見なく、6日間服用し終了。	異常-188	
217	B-05001832	男性	13歳	150mg		精神障害	回復	インフルエンザ診断を行った結果、A型インフルエンザと診断。治療目的にリン酸オセルタミビルを投与。16時頃本剤1回目服用。23時頃2回目服用。その3時間半過ぎに自宅の2階から飛び降りた。その際体温は38℃。翌日朝、受診。	異常-189	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
（販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	経過	経過の概要	前回公表No	備考
218	B-06022963	男性	13歳	150 mg	アセトアミノフェン	幻覚 異常行動	回復 回復	B型インフルエンザの確定診断により、リン酸オセルタミビルを午前中帰宅後と夕食後に内服後、夜間睡眠中に、自分の身に家人より危害を加えられると思ひ込み、家を飛び出し知人宅を廻る。7時間後、幻覚、異常行動回復。	異常-190	
219	B-06025315	男性	13歳	75 mg	プロピオン酸フルチカソン 塩酸プロカテロール	異常行動	軽快	発熱を伴うインフルエンザB型で本剤、カロナールを処方。 その夜、本剤服用後就寝し、夜中に異常言動発現叫びながらベランダに向かって歩き出す。 再度受診し、服用を中止。 その後、異常行動なし。	異常-191	
220	B-06026420	男性	13歳	150 mg		異常行動	回復	1回目服用約2.5時間後、異常な発言（「大きい石がのっている」）あり。2回目服用4時間後、起きてきて数回叫び、後退りし、手を取るがテーブルの上に乗し、その後、走り回り、母親が、押さえ込む。体温を測ろうとするが、体が硬直し、脇が占められない状態であった。また室内犬をかけた為、犬をゲージに入れるが、朝起きてなぜ犬が、ゲージの中に居るのか判らない状態であった。	異常-192	
221	B-07000063	男性	13歳	150 mg		異常行動	不明	ワクチン接種あり。インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル75mg、1日2回処方。 2階の窓から飛び下りようとしたが、家族が止めた為、事故にはならなかった。 異常行動があったため、当院にて診療。 治療後も目が覚めると歩きまわる様になった。	異常-193	
222	B-07000066	男性	13歳	75 mg	クラリスロマイシン ブランルカスト水和物 カルボシステイン ヒベンズ酸チベピジン アセトアミノフェン	精神症状	回復	インフルエンザ抗原A型陽性のため、リン酸オセルタミビル処方。38～39℃台の発熱が続いていた。 夕方、本剤服用。夕食後自室で寝ていたところ、急に起き上がり、意味不明の発語あり、窓から外へ出ようとするため、母親が馬乗りになっておさえた。5～10分程で興奮状態がさめた。その後、同様の症状は出なかった。発熱による症状かと思ひすぐには連絡しなかった。本剤服用中止。	異常-194	
223	B-07000077	男性	13歳	150 mg	フェンジソ酸クロベラスチン 塩酸アンブロキソール イブプロフェン	異常行動	回復	B型インフルエンザと診断され、リン酸オセルタミビル処方。2回目服用後、突然起きて外出する。家族が気づいて追いかけて連れ戻す。 受け答えははっきりせず、自分のした行動も理解していなかった。連れ戻した後、すぐに就寝。本剤服用中止。その後異常行動はなく、意識もすぐ正常に戻った。	異常-195	
224	B-07000130	男性	13歳	150 mg	ロキソプロフェンナトリウム ヒベンズ酸チベピジン 塩酸セチリジン	異常行動	回復	体温：39.3℃。インフルエンザB型治療のため、リン酸オセルタミビル服用開始。覚醒後「暑い」と言い「ベランダに行き、涼みたい」とベランダに向かって飛びだしそうになり家族が制止。10分後に異常行動回復。夜、臥床中、「ゲームの中のように誰かが追いかけてくるので逃げなくては」と言っふとんをかぶるといった幻視の疑いが発現。10分後に幻視回復。以降、本剤を続けて服用したが、特に異常行動は見られなかった。	異常-196	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
（販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No.	追加番号	性	年齢	用量	薬剤名	副作用	経過	経過の概要	前回の経過	備考
225	B-07000272	男性	13歳	60 mg	塩酸エブラジノン カルボシステイン 塩酸シプロヘプタジン	異常行動	回復	インフルエンザB型と診断され、リン酸オセルタミビル処方。服用し、就寝。服用2時間半後、急に体をおこし、2階の窓から飛び降りようとしたため、家人がとりおさえ、ことなきを得た。すぐにおさまリ、1階へ移動して就寝した。服用4時間半後、再び急に起き上がり、今度は1階の窓から飛び出した。その時、外で隣人が水まきをしており、その場で我にかえり、ことなきを得た。服用中止後、異常行動なし。軽快。	異常-197	
226	B-07000412	男性	13歳	138mg	塩酸チアラミド	落ち着きのなさ	回復	インフルエンザB型の治療のため、リン酸オセルタミビル処方。服用2日目、午前中に2階から転落。頭蓋内血腫と診断。入院治療し、約1週間で退院。異常行動回復。 （平成18年7月の事例）	異常-198	
227	B-07001355	男性	13歳	150 mg	ブラプロフェン 臭化水素酸デキストロメトルフアン ドンペリドン フマル酸クレマスチン	幻覚 異常行動 譫妄	回復 回復 回復	数日前から咽頭痛あり、朝から38.3℃の発熱を訴え受診。B型インフルエンザ陽性のため、リン酸オセルタミビル処方。本剤2回服用4時間後に就寝。翌日未明、両親の寝室にばたばたと入ってきて、「死ぬとこだった」とおびえた表情をしたので、両親は寝かせつけた。その朝、患児を観察すると、擦り傷、両下肢の付着物、両足底の汚れあり。事情をきくと、何かに追いかけられるような怖い夢を見ていたような恐ろしい思いをした後、自分が窓枠にぶら下がり、両足をコンクリート壁の突き出し部分に乗せているのに気づき、よじ登って部屋に入ったとのこと。部屋を確認すると、窓が開いている、足跡がついている等の形跡あり。	異常-199	
228	B-07001668	男性	13歳	150 mg	アセトアミノフェン リン酸ジメメルファン	幻覚 異常行動	回復 回復	発熱39.1℃。検査にてインフルエンザB型陽性のため、リン酸オセルタミビル5日分処方。同日昼、夜と本剤2回服用。 翌日未明、就寝していた患者が急に起きあがり、部屋を駆け回る、たんすを開ける、友達がいると言い、友達の名を大声で叫ぶなどの行動をとる。家族が気づきおさえる。数分で落ち着いた。39.9℃と高熱。同日朝、意識清明であるが、異常行動時の記憶はなし。本剤服用中止。その後、異常なし。	異常-200	
229	B-07002055	男性	13歳	不明		異常行動	回復	シーズン前にインフルエンザ予防接種2回施行。 気分が悪いと訴えあり。体温38.4℃。インフルエンザ検査陰性であったが、インフルエンザの可能性高いからと、リン酸オセルタミビル処方。服用3～4時間後の早朝、「友達がベランダから落ちた」と発言。問いかけに答えられず。そのまま睡眠した。同日夕方、ウーと声が聞こえたので、急いで行ったら、自分の頭を殴っていた。その後「人を殺した」と発言。本剤中止。暫くして意識清明となる。 翌日未明、気分が悪いと訴え、リビングを駆けずり回り、「死にたい」と連呼。救急車要請。救急隊到着時、ぼーっとしている感じではあったが、名前は言えた。入院後、補液。その間異常行動なし。意識清明。顔には自分でひっかいた、ひっかき傷目立つ。唇もかんでいるようで、出血あり。本剤内服せず様子見とした。翌日、解熱し、異常行動もみられず退院。 2週間の間隔をあけて測定したが、インフルエンザに対する抗体価の上昇なし。	異常-201	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
（販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No.	個別番号	性別	年齢	一日用量	併用薬	副作用	経過	経過の概要	前回公開No.	備考
230	B-07002997	女性	13歳	150mg	ドンペリドン 酪酸菌製剤 d-マレイン酸クロルフェニラミン	大発作痙攣	回復	3年前、A型インフルエンザにてリン酸オセルタミビル服用歴あり。副作用なし。 38.5℃。B型インフルエンザの診断にて、リン酸オセルタミビル処方。帰宅後、本剤服用。この時体温40℃。昼、異常なし。夜、2階から1階に下りようとして「こわい、こわい」とさけび出し、両手を広げバンバン壁をたたき、その後、けいれんを1分間起こした。5分後、会話ができるようになったが、「こわい、こわい」と言っていた。けいれん時：35.5℃と解熱。本剤、夜は睡眠中であったため、服用せず。 投与開始2日目、朝、本剤服用中止するも、夜は服用。 投与開始3日目、朝、タ本剤服用。	異常-202	
231	B-07004039	男性	13歳	150 mg	フマル酸クレマスチン ヒベンズ酸チベピジン アセトアミノフェン	譫妄	回復	B型インフルエンザ発症し、リン酸オセルタミビル服用開始。 投与開始2日目、朝、2階で寝ていたが、急に起きてきて階段(屋内)の途中から飛び降り、部屋の障子を倒して外へ出て行こうとした。家族が制止し、30分後、我にかえった。39℃台の発熱あり。患者によると、悪い夢を見て、何かに追いかけていたような気がしたそうであるが、階段を飛び降りたり障子を倒したりしたこと等は何も覚えていなかった。	異常-203	
232	B-07013251	不明	13歳	不明		異常行動	回復	インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル服用開始。2回目服用の4時間半後、裸になって外に飛び出す。本剤中止。服用2日目、異常行動は回復。	異常-204	
233	B-07013256	男性	13歳	42mg	アセトアミノフェン アモキシシリン ソロブテロール	幻覚	回復	A型インフルエンザ(体温は39℃)に対して、リン酸オセルタミビル服用開始。 本剤服用後に、幻覚(異常行動)が発現。 服用2日目、幻覚(異常行動)は回復。	異常-205	
234	B-07021878	男性	13歳	150mg	鎮咳配合剤(1) 柴胡桂枝湯	異常行動	回復	夕方、リン酸オセルタミビルを服用。就寝。夜中突然泣き出して、布団の中でぐんぐり返しをし、部屋の中を走り出した。押さえて、少しして落ち着いた。再び眠り、症状は消えた。本人も一部は覚えているとのこと。服用2日目、本剤服用したが、異常行動は起こらず。	異常-206	
235	B-08027727	男性	13歳	75 mg		異常行動	回復	発熱し、体がきつく動けず、アセトアミノフェン服用。体温37.0℃代へ。 翌日体温37.5℃。いつもの発熱と違うと思って午後病院受診。インフルエンザA型と診断され、夕方リン酸オセルタミビル服用。夕方から熱なし。 服用2日目、朝本剤投与。熱なし。 昼、異常行動発現。押入れに上り、天窓を開けている所を見て何しているかたずねると、「何かあるかなーと思って登ってみた」と言って自分で押入れから出る。 夕、本剤投与。 服用3日目、朝、本剤投与。熱なし。 昼、室内で1回転倒、室外で1回転倒、足捻挫。 夕、本剤投与。 服用4日目、朝、本剤投与。熱なし。2日間熱がないので服用しなくていいとし、本剤中止する。		2008/4/1以降 新規報告
236	B-08030608	男性	13歳	投与量 不明		異常行動	回復	インフルエンザと診断されリン酸オセルタミビル処方される。 夜中に歩きまわった。		2008/4/1以降 新規報告

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
（販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

№	薬剤名	性別	年齢	用量	併用薬	副作用	経過	経過の概要	経過の概要	経過の概要
237	B-05002487	男性	14歳	75mg		意識変容 状態	死亡	発熱、咽頭痛、関節痛にて受診。A型インフルエンザと診断。治療目的にリン酸オセルタミビル投与。本剤服用2時間後、9階自宅より転落。出血性ショックにより死亡。主治医によると転落したときの状況は誰も見ていないため意識障害、精神障害があったかは不明。	異常-207 死亡-13	
238	B-05017753	女性	14歳	150mg	クラリスロマイシン ヒベンズ酸チベピジン 非ピリン系感冒剤(4) アセトアミノフェン アズレンスルホン酸ナトリウム・炭酸 水素ナトリウム 塩化デカリニウム	譫妄(せん 妄)	回復	咳、咽頭痛、関節痛、発熱あり解熱剤使用しても改善されず受診。インフルエンザ予防目的にて本剤投与。本剤投与2日後、朝より被害妄想、異常行動、せん妄発現。落ち着きがなく、家中うろちしていた。本剤投与中止3日後、精神的に落ち着き、平常の状態に戻る。	異常-208	
239	B-05022381	男性	14歳	75mg	ドンペリドン シプロフェリン・ジヒドロコデイン配合 剤 アルジオキサ 塩酸エピナスチン レボフロキサシン 維持液(3) メクロプラミド	錯乱状態 落ち着き のなさ	回復	発熱(38℃)、咳、鼻症状にて本剤処方。服用後、錯乱、不穏発現(異常な発言とともに、窓に向かって走り出す(マンションの9階))。ガラスは、鍵をかけており事故にはならなかったが、両親でおさえなければならぬほどの力で暴れた。服用中止し、錯乱、不穏回復。	異常-209	
240	B-05024748	男性	14歳	75mg	アセトアミノフェン	異常行動	回復	A型インフルエンザで発熱(38.5℃)が見られ、リン酸オセルタミビルを夕方に服用した。服用開始した日の夜に2階より飛び降りる異常行動が発現。飛び降りから約2時間半後に病院へ搬送された時には異常行動は回復していた。右踵骨折、左第5指中足骨骨折、両足部外傷性皮膚欠損。飛び降りから約4時間後に頭部CTを実施し、明らかな浮腫や脳症を疑う所見を認めなかった。	異常-210	
241	B-05024963	男性	14歳	75mg	アセトアミノフェン 臭化水素酸デキストロメトルファン d-マレイン酸クロルフェニラミン	意識変容 状態 異常行動 悪心	回復 回復	A型インフルエンザ発症のため夕方リン酸オセルタミビル服用開始(39℃)。服用後意識障害(少し変なことを言う)発現するもすぐに治まった。嘔気もあり。翌朝本剤服用後、約4時間後に異常行動(服を脱いで家の外へ飛び出す)発現し行動障害(いつもできることができない等)が少し続いた。患者が落ち着いた後、総合病院を受診し血液検査と脳MRI撮影実施。3日後、落ち着いており、12日後、検査結果に異常なし、精神神経症状もなし。	異常-211	
242	B-05025213	女性	14歳	150mg	クラリスロマイシン 塩酸チアラミド 非ピリン系感冒剤 リン酸ベンプロベリン アセトアミノフェン	異常行動	回復	発熱が見られた3日後よりA型インフルエンザのためリン酸オセルタミビル服用開始(39.5℃)。初回服用1.5時間後にトイレでいきんだ後30秒ほど白目をむいた感じになった。2回目服用2.5時間後に異常行動(突然起きあがり意味不明な発言)発現のため救急受診。受診時の受け答えは正常。翌日インフルエンザ軽快し精神状態等も正常。	異常-212	
243	B-05025476	男性	14歳	150mg		痙攣 意識変容 状態 異常行動	未回復 未回復 未回復	インフルエンザウイルスは陰性だったが、家族に陽性の患者がいたため本剤投与開始。異常行動、意識障害、痙攣発現。(担当医の協力が得られず詳細は不明)	異常-213	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
（販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No.	前例番号	性別	年齢	一日用量	投薬	副作用	経過	経過の概要	前例No.	備考
244	B-05025583	男性	14歳	150mg	アセトアミノフェン 臭化水素酸デキストロトルファン シヤゼンソウエキス	異常行動	軽快	A型インフルエンザにてリン酸オセルタミビル服用開始(38.5℃)。午前中1回目服用後寝ていたが突然異常行動(階段を駆け下り、学校へ行くといひカバンを背負って外へ飛び出そうとする)発現し、しばらくの後症状軽快。その後も本剤を処方通り服用するが異常行動発現せず。	異常-214	
245	B-05025723	男性	14歳	150mg		健忘 激越 異常行動 錯乱状態	回復 回復 回復 回復	A型インフルエンザ治療のため本剤服用開始。夜間本剤服用後、家の中を大声で動き回り、家族が抱きかかえた。興奮、錯乱状態発現。2時間毎に興奮状態が出現。その後寝入って落ち着き興奮、錯乱状態、健忘症回復。翌日解熱し本剤中止。(約1ヶ月前インフルエンザが強く疑われたためアマンタジン投与。その際は高熱(39.1℃)だったが、興奮状態等の訴えはなかった。)	異常-215	
246	B-06024434	女性	14歳	75 mg	イブプロフェン 非ピリン系感冒剤(4) アズレンスルホン酸ナトリウム・L- グルタミン	転倒	死亡	発熱(38.2℃)、咳、鼻水、喉の痛みあり、インフルエンザBと診断され、リン酸オセルタミビルを服用。服用から2時間後自宅マンションから転落し、心肺停止状態。病院に搬送後に死亡確認。	異常-216 死亡-14	
247	B-06024795	男性	14歳	150mg	アセトアミノフェン	異常行動 転倒	死亡 死亡	インフルエンザA型にて本剤を服用するが、異常行動発現なし。約1年後、発熱(38.9℃)、咽頭痛、インフルエンザB型陽性で本剤を処方。朝、夕服用し、その夜に自宅マンションから飛び降り死亡。	異常-217 死亡-15	
248	B-06025006	男性	14歳	75 mg	フェンゾ酸クロベラスチン カルボシステイン	異常行動	回復	発熱(39.6℃)あり、インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル処方。本剤服用3時間半後、異常行動(走り回ったり、階段の手すりに足をかけたりする等)が10分程出現。異常行動回復。	異常-218	
249	B-06025685	男性	14歳	75mg		異常行動	回復	発熱(38.5℃)鼻症状であったため、確定診断後本剤を投与。その夜、異常行動(トイレに行こうと立ち上がったが倒れた。トイレに付き添っていくもトイレの中、壁に向かって排尿し、ふらふら歩き出し、台所の床に倒れ込む)発現。母親、心配になり、救急依頼。体温(38.2℃)。入院後、補液管理となり(体温:38.8℃)、その日の夕刻、異常行動回復。	異常-219	
250	B-06026126	男性	14歳	75mg		異常行動 意識消失	回復 回復	インフルエンザB型と診断。投与開始3日目未明、突然起床。玄関ドアの前で意識消失し転倒。意識消失は2〜3分間。その間いれんは認めない。後頭部打撲。翌日、異常行動、意識消失回復。再受診時には、患者のその間の記憶はない。	異常-220	
251	B-06026444	男性	14歳	75mg	プロピオン酸フルチカゾン モンテルカストナトリウム マレイン酸フルボキサミン プロマゼパム マレイン酸レボプロマジン	異常行動	回復	リン酸オセルタミビル75mg内服2時間後「落ちつかない」「外へ出る」と外へ出ようとした。家人が気付き、手をつかむことにより外出は阻止できた。異常行動発現。3時間程落ちつかなかったが、ようやく就寝できた。	異常-221	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
（販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No	品名	性別	年齢	一日用量	添付薬	副作用	経過	経過の概要	前回公表No	備考
252	B-07000123	男性	14歳	75 mg	塩酸アンブロキシール 臭化水素酸デキストロメトルファン	異常行動	回復	来院時、体温：39.2℃。夕方、A型インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル服用。服用30分後、異常行動発現。もうろうとして意識がクリア。「俺を殺す気か？」と言った。服用4時間後、2Fから降りてきて、再び意識もうろう状態。体温：39.0℃。「死ねと言うのか？」という言葉に母の呼びかけ「どうしたの」により意識が戻った。その後は普通。ご飯食べた。服用6時間後、2F寝室で就寝。服用8時間後、意識もうろう「何で、何で？」と言い泣いた。ベッドに戻して、うつ伏せにしたら意識が戻った。「お母さんがなんているの？」と言った。体温：37℃。服用開始2日目、朝、体温が下がって普通。	異常-222	
253	B-07000153	男性	14歳	150 mg	エバスタチン ブラノプロフェン 塩酸アンブロキシール	異常行動 意識消失	回復 回復	インフルエンザB型と診断され、リン酸オセルタミビルの服用を開始。2回目の服用後、同日、意識障害発現。翌朝、子ども部屋からのうめき声を母親が聞く。部屋に行ってみると当該患者がベッドで座位をとり、窓から身を乗り出してうめき声を発していた。しばらくして落ち着いたが、その後一人でトイレに行き、排尿をしている間に意識消失。2～3分程度継続。救急車により搬送される。到着時には、意識は回復。本人にそのときのことを確認すると、苦しい気がしたのでうめき声を発したが窓から身を乗り出していたことには記憶がないとのコメント。	異常-223	
254	B-07000156	女性	14歳	75 mg		異常行動	回復	部活の遠征先でインフルエンザを発症し、夕方、リン酸オセルタミビル服用開始。深夜、急に走り出して倒れたといった異常行動が発現。発現10分後に異常行動は回復。	異常-224	2008/4/1以降追加報告
255	B-07000162	女性	14歳	150 mg		異常行動	回復	A型インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル投与開始。夜、本剤内服後、就寝。夜中に突然起き上がり、声を出しながら（内容は不明）2階の窓より階下へ飛び降りた。直後に両親が床で患児が腰を打撲して、座っている状態を確認。ボーッとしている状態であったが、話しかけには返事をしていたとのこと。翌日には意識は全く清明であった。	異常-225	
256	B-07000206	男性	14歳	75 mg	Ｌ-塩酸メチルシステイン カルボシステイン セフトラムビドキシール トラネキサム酸 ブラノプロフェン	異常行動	回復	インフルエンザB型治療のため、リン酸オセルタミビル処方。服用後、寝ていたところ突然起き上がり、部屋中を手をゆさぶり歩き回るが、呼びかけには答えず。2～3分で落ち着いた。本剤服用中止。翌日、未明に突然起き上がり、上肢を1分程バツカせるが、その後回復。	異常-226	
257	B-07000215	男性	14歳	75mg	セフトロキシムプロキセチル 塩酸アゼラスチン 塩化リゾチーム	異常行動	回復	インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル処方。服用後、かなり激しく動き回り、その後就寝。その2時間後突然覚醒し、二階へかけ上がる等の異常行動発現。	異常-227	
258	B-07000218	男性	14歳	75mg	アセトアミノフェン	異常行動	回復	リン酸オセルタミビル服用開始。服用2日目、ズボン脱いで階段を昇り降りしながら、異常行動発現。当日、夕方に入院するが、症状なく、入院3日後に退院。	異常-228	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
（販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No.	識別番号	性別	年齢	一日用量	併用薬	副作用	投与	経過	副作用No.	備考
259	B-07000261	男性	14歳	150mg	アセトアミノフェン	幻聴	不明	咳・鼻水あり市販の解熱鎮痛剤を服用。38℃台の発熱がありボーっとしていたが意識正常。頭痛・悪寒があり、受診し、インフルエンザA型陽性と出たため、リン酸オセルタミビル処方。翌朝、母親が外から呼んでいるというような幻聴があり、自宅玄関(5階)から外へ出ようとしたため制止した。	異常-229	
260	B-07000283	男性	14歳	75 mg		譫妄 意識レベルの低下	回復 回復	発熱39℃。インフルエンザB型と診断され、リン酸オセルタミビル投与開始。服用3時間後、せん妄、もうろう状態発現。トイレに行きドアを開けずに接近し、転倒。その後2階で寝かせた。床の中で不穏動作(手をバタバタさせたり起き上がろうとしたり、物に話すような動作)が認められたため、両親が体を抑えつけていたら改善した。記憶は定かではなかったとのこと。症状回復。本剤投与中止。翌朝、体温35.8℃に低下し、回復。	異常-230	
261	B-07000284	男性	14歳	150 mg	ヒベンズ酸チベジジン カルボシステイン 塩酸シプロヘプタジン	幻覚	回復	インフルエンザB型と診断され、リン酸オセルタミビル投与開始。異常行動、幻覚発現。何か幻覚のようなものを見て、外に出ようとした。母親が止めようとしたが、止められず、父親が平手打ちをしたところ正気に戻った。翌日、熱も下がり、症状は回復。本剤は継続中。	異常-231	
262	B-07000306	男性	14歳	75 mg		異常行動	回復	インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル服用開始。服用後も高熱(41度)が持続。服用10時間後、2階から階段を勢いよく下りてきて、玄関から飛び出し、田んぼの中を走り回り、国道に倒れていたのを通りがかりの車輦に発見される。その後、本剤服用中止。アセトアミノフェン服用し、解熱。異常行動回復。	異常-232	
263	B-07002193	女性	14歳	75 mg	アセトアミノフェン 塩化リゾチーム カルボシステイン トラネキサム酸	異常行動	回復	インフルエンザB型治療のため、リン酸オセルタミビル服用。服用2時間半後、壁に頭を打ちつけるのを家族が発見。本人は分かっていたが、頭を打ち続けることを止めることができず怖かったとのこと。1回内服のみで中止し、その後、異常行動を認めていない。	異常-233	
264	B-07005083	男性	14歳	75 mg	ロキソプロフェンナトリウム デブレン 塩酸アンブロキソール アセトアミノフェン	異常行動	軽快	急性上気道炎、咽頭炎。37.8℃の熱発があるが、インフルエンザ陰性。1週間後、39.8℃の熱発。リン酸オセルタミビル、アセトアミノフェン坐剤処方。約1時間半後、自宅にて睡眠時にうわごとあり。後、突如起き上がり、部屋を出ていこうとしたところ、家族が制止。落ち着いたが、急に何かにおびえだす。服用開始から2日目、症状は落ち着いていた様子。以後、副作用もなく転帰良好。	異常-234	
265	B-07013254	男性	14歳	150 mg	塩酸チアラミド デブレン d-マレイン酸クロルフェニラミン リン酸ベンプロペリン アセトアミノフェン ホスホマイシンナトリウム	激越 幻覚	回復 回復	リン酸オセルタミビル服用開始。深夜、2階で寝ていたが、駆け降りてきて興奮気味に「何か変なものがある」と訴えた。母親とすぐに2階へのぼったが、しばらくして再び眠った。30分後、興奮・幻覚は回復。	異常-235	
266	B-07013399	男性	14歳	不明		異常行動	不明	インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル服用開始。服用後、ベッドの周りを走り回った。	異常-236	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
（販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No.	処方番号	性別	年齢	用量	処方薬	副作用	経過	経過の概要	前回の経過	備考
267	B-03010203	男性	15歳	150mg		妄想	未回復	インフルエンザA型と診断、リン酸オセルタミビル150mg/日を処方。同日夜、内服。翌日昼、解熱したが、異常な発言あり。その翌日、本剤の投与中止。その後言動のまとまりがなくなり、統合失調症の発症が疑われた。本剤投与中止12日目に、幻覚妄想が活発に認められ、入院。病院内を落ちつきなく徘徊。幻覚妄想は未回復。	異常-237	
268	B-05001829	男性	15歳	75mg	アセトアミノフェン 鎮咳配合剤 カルボシステイン	譫妄（せん妄） 痙攣（痙攣）	後遺症	高熱あり、救急外来受診。A型インフルエンザと診断され、治療目的としてリン酸オセルタミビル投与。その後、せん妄・痙攣発現。病院に救急搬送され、入院となる。その後急にベッドから立ち上がり、点滴ラインを引っ張った。翌日早朝、意識清明となり覚醒し、頭痛や麻痺・硬直等の症状緩和。翌日、解熱、異常行動なく全身状態改善のため退院となるが、後遺症あり。	異常-238	
269	B-06024227	男性	15歳	150mg	レバミピド 塩酸セチリジン アセトアミノフェン 塩酸ボシメチン	嗜眠 異常行動	回復	A型インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル75mgx2回/日を投与。4日目にインフルエンザ軽快・回復。6日目の10回目投与後、学校で授業中突然歌を歌う。目線が定まらず早退。帰宅後も嗜眠傾向。採血、検尿、脳CT異常なし。脳MRI、脳波は興奮のため最後まで撮れないが、撮れた分は異常なし。15日目では異常行動、嗜眠傾向は未回復。21日目以降の時点で父母から見て正常に戻ったと評価している。	異常-239	
270	B-06024378	男性	15歳	150mg	非ピリン系感冒剤(4) テリスロマイシン 塩酸アンブロキシール ヒベンズ酸チベジジン テブレノン	異常行動 自殺企図	軽快 軽快	インフルエンザと診断。体温39℃。リン酸オセルタミビル2回目服用後、3時間後に悪夢を見て暴れた。その6時間後、再度暴れ、包丁の刃を自分に向けていた。2時間後、自殺未遂及び異常行動は軽快。	異常-240	
271	B-06026296	女性	15歳	150mg	非ピリン系感冒剤(4) 塩酸セフカペンピボキシル ソファルコン 臭化水素酸デキストロメトラン クレゾールスルホン酸カリウム 鎮咳配合剤(1) カルボシステイン	全身紅斑	回復	キットにてB型インフルエンザ陽性にて、リン酸オセルタミビル処方。夜、本剤1回目服用。服用2日目、朝、夕服用後、四肢の紅斑が出現。紅斑発現2時間後、徘徊、両上肢、手指のケイレン出現。1時間で軽快。服用3日目、朝、前日夜出現した紅斑が急速に全身に拡大してきたため、再来院。他院皮膚科に紹介入院。	異常-241	
272	B-07000065	女性	15歳	150 mg	臭化水素酸デキストロメトラン カルボシステイン 塩化デカリニウム アセトアミノフェン	異常行動	回復	発熱38℃、咳あり。インフルエンザB型治療のため、夕食後にリン酸セルタミビル75mg服用。深夜、眠っていたが、突然起き上がり、部屋中を走り出したため、家族が制止した。目つきも怪しかった。異常行動発現。異常行動回復。本剤服用中止。	異常-242	

異常な行動が記録されている事例の概要（年齢順）
（販売開始（平成13年12月）から平成21年3月31日まで）

No	識別番号	性	年齢	一日用量	服用薬	副作用	経過	経過の概要	前回公表No	備考
273	B-07000078	男性	15歳	150 mg	フマル酸エメダスチン カルボシステイン 塩酸エブラジノン	異常行動 妄想 幻覚	回復 回復 回復	B型インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル処方。本剤服用3時間30分後、徘徊、発現。トイレに行くといつて玄関の方へ歩いていくが家族によって制止され、その後眠った。服用2日目、朝、本剤服用1時間30分後、トイレで号泣しているのを家人が発見。「母が死んだ」「怖い人が来る」等の妄想、幻覚が出現。30分後には自然に回復。本剤服用中止。服用開始から3日目、熱が引かないため、セフトリアキソンナトリウム処方。全身状態は悪くないとのこと。	異常-243	
274	B-07000108	女性	15歳	75 mg	非ピリン系感冒剤(4)	異常行動	回復	インフルエンザAに対して、リン酸オセルタミビル服用開始。服用6時間後(1:30頃)、2階から突然飛び降りた。飛び降りた瞬間に意識が戻った。本人の申告では、ガラス窓と雨戸をあけて、戸外にとびおりたその瞬間に気づいたとのこと。服用8時間後(3:30頃)、家族が外に転落しているのを発見。翌朝、救急で搬送。CT、レントゲン異常みられず帰宅。	異常-244	
275	B-07000259	男性	15歳	75 mg		異常行動	回復	B型インフルエンザと診断。夜、リン酸オセルタミビル服用後、就寝。翌朝、朦朧として起床、室内を徘徊し、突然、自宅2階ベランダの柵を越え飛び降りようとしたが、母親が制止した。その後、意識回復したが異常行動の記憶はほとんど無い。	異常-245	
276	B-07001356	男性	15歳	75 mg*	アセトアミノフェン	異常行動	回復	インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル投与開始。服用3日目、服用後に患者が異常に本剤を欲しがり、母親の首を絞めるなどの異常行動あり。翌日、異常行動回復。	異常-246	
277	B-07001670	女性	15歳	75 mg	アセトアミノフェン	大発作痙攣	回復	39.2℃の発熱を主訴に初診。インフルエンザB型の診断にて、リン酸オセルタミビル処方。同日夜、風呂場に行き、浴槽で頭を打ちつける異常行動を発現。出血(少量)あり。失禁あり。意識清明まで5、6分。その後、強直発作10秒認める。発熱は一度37℃台に戻るが、再び38℃台に上昇。その後、就寝。深夜、トイレに行ったときに脱力し、意識消失。約1分後に回復したが、その後10分程度ボーとした状態であった。その後、通常に戻り就寝。徐々に平熱となった。	異常-247	
278	B-08006353	男性	15歳	75 mg	アセトアミノフェン	異常行動	回復	迅速検査実施にてインフルエンザB型と診断。インフルエンザ症状緩和のため、リン酸オセルタミビル、アセトアミノフェン、他剤の服用開始。 服用3日目、体温37.0℃あり、患者は登校できなかった。 服用5日目、体温は正常範囲に治まったが、嗜眠状態は続いていた。 服用6日目、登校。授業中、患者は姿勢よく正座をし、大きな声で歌い始めた。他の生徒とコミュニケーションをとることはできず、患者の目には彼らが入っていなかった。患者はせん妄状態だった。両親が患者を家に連れて帰ったとき、患者は再度嗜眠状態となった。行動には明らかな異常は認められなかったが、患者は学校に戻りたがってはいなかった。 本剤服用終了から4日目、両親に連れられ、医療機関受診。本剤による異常行動を疑われ、搬送。 尿検査、血液化学検査、頭部CT、脳MRI、脳波測定等一連の検査で異常は認められなかった。入院前の診察で患者は「自分のマスクに虫がいる」と言っており、幻覚が発現していることが疑われた。入院時、せん妄に特徴的な症状が認められた。患者は静脈を抜き取ろうとし、さもないければ家に帰りたいと叫んだ。「ここは病院ではない。老人ホームだ」と言った。 本剤服用終了から6日目、放射線画像検査を受けることはなかったが、患者は建物に入るのを嫌がり、患者が興奮したため全ての検査を終了することはできなかった。 本剤服用終了から7日目、病院受診の際、自分の着まわしとしていたことができず、病院の外の道で車に轢かれそうになりながら走り回った。 その後、特に大きな問題もなかったため、両親に連れられて登校を試みた。数日目正式に退院。患者の異常行動は、携帯で友人からのメッセージを読んだ後にだけ発現することが分かった。このことを患者自身とても恥ずかしく思っているが、自分が何をしたかを思い出すことはできなかった。異常行動後、患者は全くの正常状態に戻った。 異常行動は回復。これらのイベントの期間中、アルコールの摂取はなかった。	2008/4/1以降 新規報告	